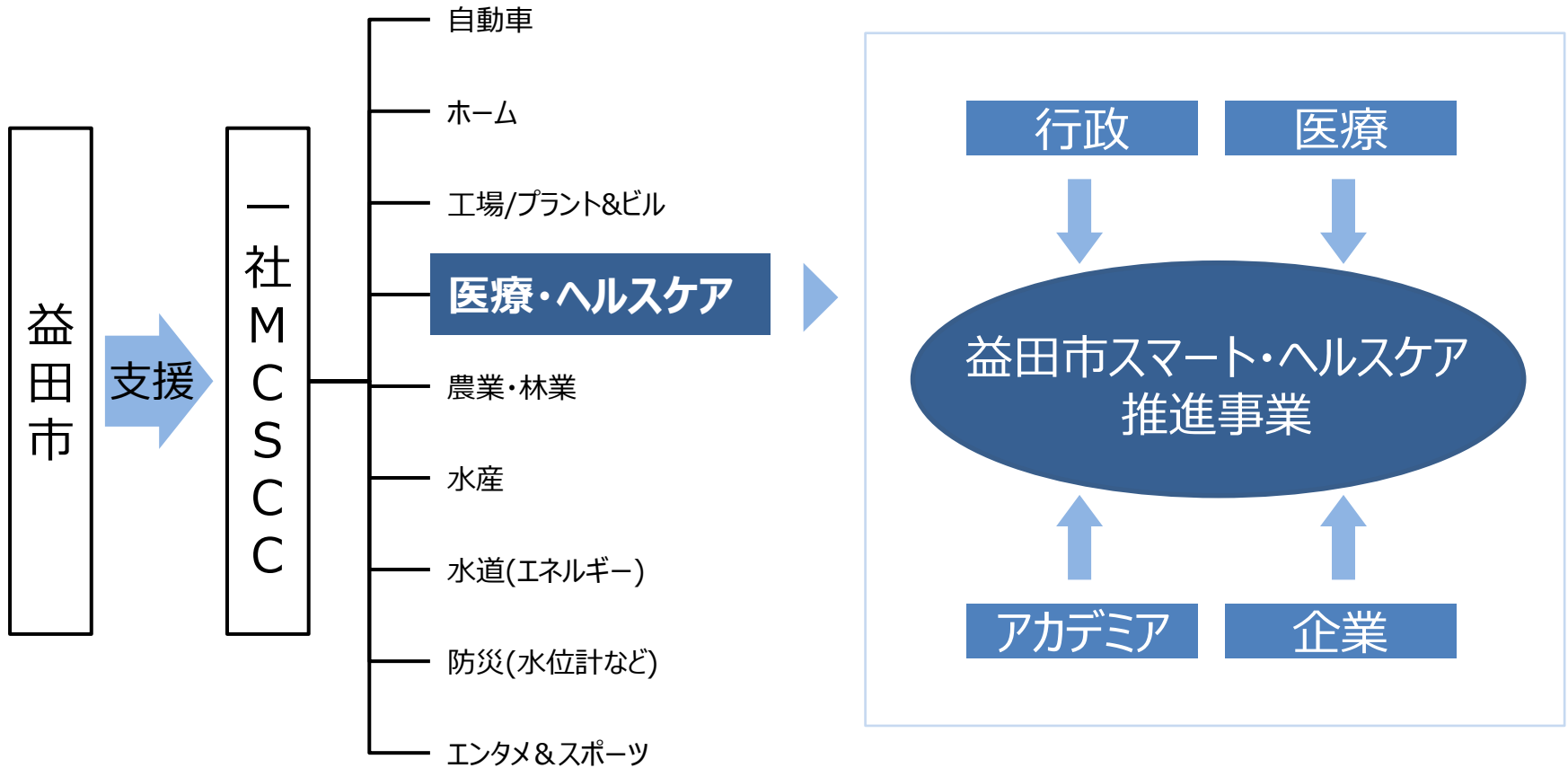


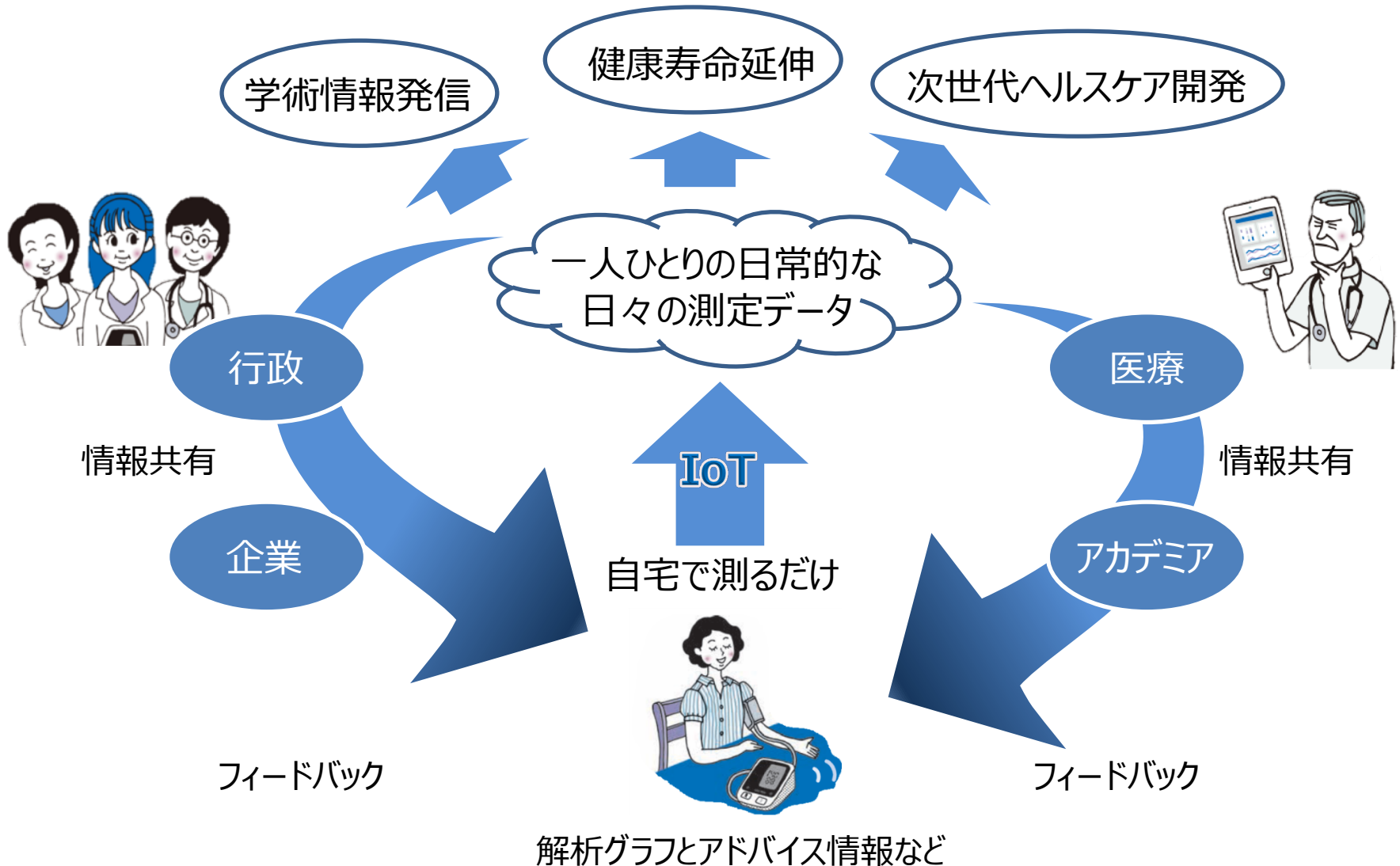
益田市スマート・ヘルスケア推進事業

IoTを活用した「**血压管理**」を推進することで
市民の**健康寿命の延伸**に貢献する



IoTを活用した「血压管理」の仕組み

IoTの活用により血压（+生活）データが共有されることで
一人ひとりにきめ細やかな血压管理ができる



「益田市スマート・ヘルスケア推進事業」今後の進め方

職域 → 市民 → 医療の3ステップで進める

<p>STEP1 職域</p>	<p>職域での仕組みの検証</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2018年10月～2019年3月・ 益田市内の企業様に協力いただき 従業員の皆様（計310名）でトライアル開始
<p>STEP2 保健領域</p>	<p>広く市民の皆様に展開</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2019年度以降・ 市民の皆様に広く啓発し 1,000～2,000名の市民の皆様の血圧管理を実施
<p>STEP3 医療</p>	<p>医療との連携にチャレンジ</p> <ul style="list-style-type: none">・ 2020年度以降・ 医療と連携した血圧管理の実現を目指す

益田市 スマート・ヘルスケア推進事業

(4/23)

益田市でのIOTを活用した産業育成（スマートシティ構想）の一環として
2018年7月20日にキックオフ

益田市 + 島根大 + 医師会 + 企業が協力体制を構築

2018年(平成30年)7月21日(土曜日) 島 地 域

IoT活用 健康づくり

IoTを活用した益田市の健康づくりのイメージ

益田市は10月、IoT(モノのインターネット)を活用した市民の健康づくりに乗り出す。企業や大学、医療機関と連携し、市民が自宅で測る血圧などのデータを分析。個別に最適な助言をして健康状態の改善を進める「カスタマイズ医療」の実現を目指す。(根元大輔)

市民のデータ集め助言

健康管大手のオムロンヘルスケア(京都府向日市、島根大市 依頼。2019年度以内の医療機関など連携は対象を市民の個人携して取り組む。同社 程度に広げ、少なくとも血圧計を市民に使用も数年単位でデータをもらい、測定したデータ分析する。将来は、市データを携帯電話の回線内の医療機関が持つ電子カルテに自動送信する。尿内の塩分と方有し、血圧の日常的なリズムの濃度や、1日管理を進めたい考えでの運動量を抑える機器で、IOTを活用して医療や交通インフラ、防災などの課題解決を目指す「スマートシティ」構想の一環として、市が関係機関に協力を分けたら、山本浩章市長は「脳卒中などを適な改善策を個別に伝 早期発見見ても防げる。健康器具の開発、医療費の抑制にもなるや学術情報の発信、市 けたいに促している。

益田市、医療・大学・企業と連携

民全体の健康増進にも役立てる。
手始めに10月から半

健康管大手のオムロンヘルスケア(京都府向日市、島根大市 依頼。2019年度以内の医療機関など連携は対象を市民の個人携して取り組む。同社 程度に広げ、少なくとも血圧計を市民に使用も数年単位でデータをもらい、測定したデータ分析する。将来は、市データを携帯電話の回線内の医療機関が持つ電子カルテに自動送信する。尿内の塩分と方有し、血圧の日常的なリズムの濃度や、1日管理を進めたい考えでの運動量を抑える機器で、IOTを活用して医療や交通インフラ、防災などの課題解決を目指す「スマートシティ」構想の一環として、市が関係機関に協力を分けたら、山本浩章市長は「脳卒中などを適な改善策を個別に伝 早期発見見ても防げる。健康器具の開発、医療費の抑制にもなるや学術情報の発信、市 けたいに促している。

